

学位論文の要旨

フリガナ氏名	アイバ ハルカ 饗場 葉留果
専攻 入学年度	宮崎大学大学院農学工学総合研究科博士後期課程 資源環境科学専攻 平成 22 年度 (10 月) 入学
学位論文 題目	天然記念物ニホンヤマネの微小生息環境選好と生息地保全に関する研究
<p>【論文の要旨】 (和文の場合1,200字程度、英文の場合800語程度)</p> <p>ニホンヤマネ <i>Glirulus japonicus</i> (以下、ヤマネ) は、国指定の天然記念物の樹上性げっ歯類である。本種は食餌、休息場所、繁殖といった活動季の生活のほとんどを樹木に依存しているが、本種の休息場所に関する詳細な知見はない。一方で、開発によって森林が分断されヤマネの生息環境が損なわれる中で、有効な保全策を図るために本種の生態を解明することが急務とされている。そこで、本研究ではヤマネの活動季の休息場所について野外調査を行い、微小生息環境選好の観点から好適な環境条件を検討した。</p> <p>まず、休息場所としての朽ち木の役割について調査した。3頭のヤマネをテレメトリーで追跡し、昼間の休息場所として朽ち木を多く利用していることを明らかにした。また、朽ち木の存在率が約25%の森林で3頭の内2頭が50%以上朽ち木を利用したことから、朽ち木は活動季のヤマネにとって重要な休息場所であり、生息に必要な環境条件の一つであることが示唆された。</p> <p>活動季の休息場所の空間選択調査ではヤマネが利用した部位をより細かくカテゴリー化し、休息環境の詳細を検討した。ヤマネは樹上を多く利用し、また、生木と完全な朽ち木の利用では、完全な朽ち木を選択的に利用した。樹木の利用部位については、生木の時には枝を、完全な朽ち木の時には主幹を多く利用することが判った。隙間と樹洞の利用比較では、隙間の利用が多かった。枯死していない部位と枯死している部位の利用では、枯死している部位を多く利用することが判った。胸高直径と利用部位との関係では、生木と完全な朽ち木、いずれの場合でも、樹洞利用の方が隙間利用よりも太い直径の樹を多く利用した。以上の結果から、活動季のヤマネは休息場所として森林内の隙間や枯死部など、他の樹上性哺乳類があまり利用しない場所を有効に活用していると考えられた。</p> <p>さらに、ヤマネの繁殖期の巣について調査を行った。36個の巣の内、35個が樹上にあり、テングス病の部位に作られていたが、1つは地上に設けられた。平均的な巣の高さは、1.85 ± 0.88mで、その大きさは、11.0cm (長径) \times 8.7cm (短径) \times 9.6cm (高さ) であった。巣は円形、または楕円形で、主要な巣材である樹皮が編み込まれていた。壁面にはしばしばコケを、中にはサワフタギの細い樹皮を使用した。このように繁殖巣の材料からも生活の中心が樹上であることが示唆された。</p> <p>本研究より、樹木はヤマネにとって重要な休息場所であると共に、非繁殖期では朽ち木や隙間などの空間を有効に利用していることが分かった。また、繁殖期では、巣材を利用した巣を形成することから、巣材を採取できる環境が必要であることも示唆された。従って、ヤマネにとっての好適な生息環境とは、様々な状態にある樹木が並存する環境であると言える。</p>	

(注1) 論文博士の場合は、「専攻、入学年度」の欄には審査を受ける専攻を記入すること。

(注2) フォントは和文の場合、10.5ポイントの明朝系、英文の場合12ポイントのtimes系とする。

(注3) 学位論文題目が外国語の場合は日本語を併記すること。

(注4) 和文又は英文とする。